

食糧は大丈夫か

漁業に妙案はない



議員 照男 てる お
明神 みょうじん

佐賀町の時からの事業。進入路は国交省、県警、幡多土木事務所等と検討した結果で、立地条件はカーブやレーンで制約されるが危険回避に努めて行きたい。

問 新産業創造事業（缶詰製造）

は災害時の非常食が製造目的なので賛成だが、立地が津波浸水域では、みんなの借金でやるのだから反対だ。そうそうたる人達の企画だが、問題はこの人達が経営者でない事だ。南国市などは企業に高台移転を進めているが、計画変更はないか。

答 大西 町長

本工場は浸水域外の予定だが、今回は試作品製造工場もあり、隣接する特産協の施設の活用もできるため計画どおり進めたい。

答 今西 建設課長

「さが道の駅」は産業、観光等で地域活性化を目的に旧

課長は燃油や魚佃安の事は聞いてるので妙案が無い事はない。町長が漁師の事なのでおいちよけと言う筈もないし、来年からは曳縄のヨコ漁も規制される。

6月県議会での質問で、漁業法改正には行政も漁協も反対している。現行法では経費削減は出来ず魚佃安で元気になる道理はない。町に妙案は本当に無いか。

答 大西 町長

法改正は無駄な獲り合いがなく、魚佃維持でも過剰投資がなくなるが、問題は全員の合意になってない事と、監視をする費用だと思ふ。高知では直ぐには問題もあり、県漁協の考えも聞くが、漁業に妙案はない。

環境問題

伊方原発再稼働への対処は事故を想定して検討

自然を守る事が第一と思っていたが、原発事故に勝る環境破壊はなく、三陸の海は駄目だと思う。町は伊方原発が再稼働するようであれば、どのように取り組むか。

答 松田 住民課長

県の地域防災計画策定を前提に、町も原発事故を想定するように検討中。



佐賀漁港に係留している漁船